

火災調査科第31期 ～模擬家屋火災実習の概要～

消防大学校火災調査科第31期は、本年6月8日から7月27日にかけて、全国から48名の火災調査業務に従事する指導者が集まり、約2か月にわたり当該業務に関する高度の知識及び技術を専門的に修得し、教育指導者等としての資質の向上を目的に教育訓練に励みました。

本稿では、火災発生後の消火活動に始まり、焼け跡の中から「灰の中の真実」を求めて火災の出火原因を究明する模擬家屋火災実習の概要と取組を紹介します。

1 模擬家屋火災実習の概要

この実習は、実際の家屋同然に内装や家財等を施した約10㎡の建物を4棟仕立て、各棟で異なる原因で火災を発生させて、実際の現場と同じように火災調査業務を進めていくものです。

学生には、出火原因を知らせずに、入校期間中に火災調査書類を完成させることを全員に義務付けているため、実際の火災と同様の原因調査、鑑識等を行い、書類作成能力を身に付けることのできるものとなっています。このため、本課程を総括する実践的な訓練と位置付けて実施しているところです。

- (1) 模擬家屋燃焼実習
火災現場の指揮要領、情報収集（延焼状況、写真撮影）、消火及び残火処理要領
- (2) 現場調査実習
現場の指揮、発掘、写真撮影、図面作成、原因判定、関係者への説明要領
- (3) 鑑識実習
出火箇所にある火源となり得る物件の鑑識（アイロン・電気ストーブ・照明・テーブルタップ等）
- (4) 実験実習
出火箇所にある火源となり得る物件の出火原因再現実験（アイロン・電気ストーブ・照明・たばこ・アロマキャンドル・テーブルタップ等）
- (5) 鑑定等（X線透過装置・成分分析）
出火箇所にある火源となり得る物件内部の状況や物件に付着した炭化物の成分分析

2 模擬家屋火災実習での取組について

学生48名（4棟各12名）が主体となって、各任務分担（調査責任者、指揮者（主任調査員）、発掘者、写真撮影者、図面作成者）に基づき、火災現場の指揮要領から消火、現場発掘、鑑識、再現実験及び関係者への原因説明要領までを実施しました。

研修の最後には、作成した火災調査書類の発表会を実施し、指導者としての説明能力（プレゼンテーション能力）の向上や質問、講評等の意見交換を交えて、更なる火災調査業務の知識の向上も行いました。



模擬家屋室内の延焼状況



現場調査（発掘）の状況



鑑識実習の状況



出火原因再現実験の状況

火災調査業務は、火災の原因の究明はもとより、延焼拡大要因、消防用設備の作動状況、死傷者の発生状況など各種消防行政の根本を支える情報源としての重要な役割を担うものであり、火災原因の究明を行うことで、類似火災の再発防止を図り、「市民の安心・安全なまちづくり」に繋がるものと考えています。

なお、本訓練の実施計画書等、より詳しい内容を御希望の方がいらっしゃいましたら、下記問い合わせ先まで御連絡いただければ、内容説明又は資料の提供をいたします。

問い合わせ先

消防大学校教務部 山口助教
TEL: 0422-46-1714



消防大学校だより

教育訓練の実施状況 (平成28年4月～7月実施分)

平成28年4月から7月実施分の教育訓練及び卒業（修了）生は、次のとおりです。

学科・コース名	教育訓練期間	卒業（修了）生
指揮隊長コース第15回	4月11日から21日の11日間	29名
新任消防長・学校長科第20期	4月12日から22日の11日間	18名
指揮隊長コース第16回	5月9日から19日の11日間	47名
新任消防長・学校長科第21期	5月10日から20日の11日間	37名
自主防災組織育成コース第12回	5月23日から27日の5日間	64名
救助科第73期	4月11日から6月2日の53日間	60名
危機管理・国民保護コース第6回	6月2日から8日の7日間	69名
危険物科第11期	6月22日から7月22日の31日間	42名
火災調査科第31期	6月8日から7月27日の50日間	48名
警防科第99期	6月8日から7月27日の50日間	60名
幹部科第45期	6月14日から7月29日の46日間	56名
合	計	530名

★消防大学校の最新情報は、ホームページ (<http://fdmc.fdma.go.jp/>) に掲載しています★

問い合わせ先

消防大学校教務部 久富
TEL: 0422-46-1712